



内容品



手当ての流れ

手順 1 冷却

●ちょっとしたやけどのとき

- ・水道水で冷やす。
- ・刺激が強い場合は、やけどをしたところに直接水圧がかからないよう洗面器などに浸す。



●やけどが広範囲のとき

- ・ホースやバケツで水をかける。
- ・水につけた清潔なシートなどでやけどした部分を包んで冷やす。



●衣服を着ているとき

- ・衣服を着たままの状態、ホースなどでゆっくりと水をかける。

※無理に衣服を脱がそうすると、皮膚組織を傷める場合がある。



●薬品によるやけどのとき

- ・化学薬品などをかぶった場合は、体についた薬品を流水でよく洗い流す。
- ・目に入った場合は絶対にこすらず、やけどした方の目を下側にし、やけどしなかった方の目は閉じて、流水で洗い流す。



冷やしすぎに注意

広範囲のやけど・乳児のやけど・気温が低いときは、低体温になりやすいため10分以上冷やさない。

民間療法は禁物

やけどした部分にアロエ・油・味噌などをむやみに塗らない。

水ぶくれ

水ぶくれはつぶさない。

手順 2 被覆

- ・感染を防ぐために、ガーゼなどでやけど部分を覆う。
- ・やけど面積が広い場合は、三角巾やタオル、清潔なシートなどを用いて覆う。

用意するもの

ガーゼ

三角巾

タオル